2005年度授業改善研修参加レポート　　所属（　経営学部　）　氏名　功刀　由紀子

「研修会等名称」

大学活性化研修(基本コース)　（日本私立大学連盟）

場所：浜松

期間：2005 年 9 月 6 日～9 月 8 日

1．研修の内容

本研修は、国立大学の法人化、さらには学校教育法の改正に伴う、7 年に一度の外部評価の義務づけに象徴される大学環境の競争社会化において、日本私立大学連盟加盟校が挫折することなく勝ち抜くための手法を学ぶ場であるとの位置づけがなされている。さらに、この目的実現のための具体的テーマとして「大学の自己点検・自己評価」を設定し、効果的な点検・評価活動を達成するための手法として、評価指標（何をどのように評価すればよいのか）および評価基準（何を測定すれば達成で来るのか）の策定方法を実践的に学ぶことが、本研修のねらいである。

このような目的・テーマのもと、私立大学連盟加盟校から教職員 82 名が参加し、9 グループに分かれて、グループごとに設定したさまざまな討議課題につき、教員と職員が問題意識を共有しつつ共に議論し、目的達成のための手法を学んだ。

2．研修の成果

報告者が所属したグループでは、大学の自己点検・自己評価における評価項目として「教育効果の測定]を取り上げ、教育効果の測定に関する有効な評価基準の設定および数値評価の可能性について討議した。

大学教育の成果は、入学してきた学生にどれだけの付加価値を付けて社会に送り出すことができるかで評価されると、一般的には言われている。この付加価値が、大学における教育効果ということであろう。

では、大学における教育効果の測定、評価に関し、的確かつ有効に教育効果を明示するために必要な項目を考えてみよう。

1．測定、評価の対象項目は何か。
2．各対象項目における測定、評価の基準は何か。
3．測定、評価は定性的か、あるいは定量化が可能か。

何をもって教育効果が上がったかを判断、評価することは、大学の教育理念、学部の専門性や特色等に依存しており、一概には定義できないであろう。さらに、視座の違い、それも個別の視座、例えば教員、職員、大学経営者、保護者、学生自身、さらには就職先の企業といった大学に関わるステークホルダーの違いによっても異なるであろう。

また、大学内外の違いにも注目する必要があろう。特に、大学を取り巻く経済的、政治的、文化的社会情勢の変化によっても、学生に対する付加価値の意味と内容は揺らぎをみせている。

このように教育効果を広義に捉えるのではなく、あくまでも大学内での教育活動として狭義に捉えるとすれば、

１．　評価の対象項目は、学業成績、就職状況、資格取得状況など

２．　測定･評価の基準は、GPA、留年者数、資格取得者数（公務員試験、司法試験、公認会計士、税理士等）、就職率および就職先企業の内容など

３．　学生による授業評価アンケート結果の定性的、定量的な利用

などが挙げられる。

一方、上記のような教育の結果を評価するだけではなく、学習過程における学生の努力や積極性の向上などを測定、評価する方策も重要であろう。

３．　授業への研修成果の反映状況

本研修は、授業改善を直接目的とした研修ではなく、あくまでも、教育研究の充実を目指した創造的な大学経営を適切かつ円滑に進めるための一つのテーマである「大学の自己点検・自己評価」の具体的手法を実践的に体験、学ぶ場である。そのため、本研修での成果をそのままの形で授業に反映させることは困難である。

しかしながら、教育効果の数値的評価・測定は、授業改善に大いに役立つ項目であり、学生による授業評価と関連させることも可能であろう。

さらに、目的達成のためにとるべきプロセスや個々の手法を実践的に学ぶことは、問題解決、目的達成のための方法論として重要かつ必要である。

学 部 長	ＦＤ委員長	ＦＤ委員会	総合企画課長	係